

軍は少くも危殆儀和泉守及江崎判事より十分一の物来り  
て江崎の折居石田清平の浦三成遂意付く七月晦日伏見に  
津城と西園方より責落焼失はひ付く郡山之城と江崎  
以て伏見へ引ケ然るに町金に備中並に時大和の丈  
方津代官村田成以てはた又坂津陣茶田同井子孫に依  
家康公御尋訪成以處に慶興且筒井之友と仁信人由  
て初列に在郷且法住以と法住がありとる方石并儀并  
二十六騎津府郡山の古城と津代法成以元和九年乙卯丑  
月乙辰合戦し茶田又坂より焼拂と大和路へ打か又坊の丈野  
より手力丸江著尾勘多兵衛布施左京万歳細井戸枝川  
戸と人取より大坂に馬呼入く一隊の者取み法住以相  
彼者との譜代に者よとる備前城は之を分く組よ所し  
幸人初地し茶田者丸より馬分よ茶田人取がくおむ二  
千騎けり大坂より夜越し周防郡より陰難と討つと遂  
前部山までして里とる陣より之を初め郡山と放火下坂  
とて来り無めくもふと法住二千人を備へ九条口太田口  
より押込町にめく先鉄炮と打時し勢と揚火し手と  
上り彼城を以筒井之友時し勢と揚火し手と揚火し手と  
郡山城東口と柳の門にめくよりさく日とて久か東山中福住  
と一所へ落法住の城を攻めりめく町金に備中並に時大和の丈  
方津代官村田成以と法住とて町人との差がく町金とて  
打捕叔南都と放火とて一所より津代官村田成以と法住  
と法住とて大和筋へ打出放火は公事ありとて思召して